患者サポートエリア

サポエリだより

ご自由にお持ちください
第2号
2026年4月

知っていますか？『重複がん』

「重複がん」という言葉をご存じでしょうか。
ひとりの患者さんに複数の部位でがんが見つかることがあり、これを重複がんと呼びます。
近年の研究である種のがんにかかった方は別の部位にもがんが発生しやすいことがわかってきました。

〜 内視鏡検査で「がん」の早期発見を 〜

本院消化器内科では消化器内視鏡専門医24名、指導医7名が在籍し、日々内視鏡検査を行っています。近年は早期発見がキーワードとなり、がんを“早く見つけ、適切に診断し、早く治す”ことを大切にしています。本院での内視鏡検査をご希望の方や何か不安がありましたら、かかりつけ医を通じてどうぞお気軽にご相談ください。（当科では、原則として、紹介をいただいてから10日以内に各専門外来を受診できる体制を整えております。受診をご希望の患者さんはかかりつけ医にご相談ください。かかりつけ医から本院医療連携室にご予約していただき、診察日を事前にお取りいたします。）

消化器内科科長
消化器内視鏡センターセンター長
西川 浩樹

飲酒・喫煙が引き起こす「がんの連鎖」

食道がんと頭頸部がん（のど・口の中のがん）は、飲酒と喫煙という共通の危険因子を持っています。特にアルコールを分解する酵素（ALDH2）の働きが弱い方（お酒で顔が赤くなる方）はリスクが高くなります。口からのど・食道に至る粘膜全体が発がん物質にさらされ続けることで広範囲にがんが生じやすくなる現象を「field cancerization」と呼びます。

研究でわかった重複がんのリスク

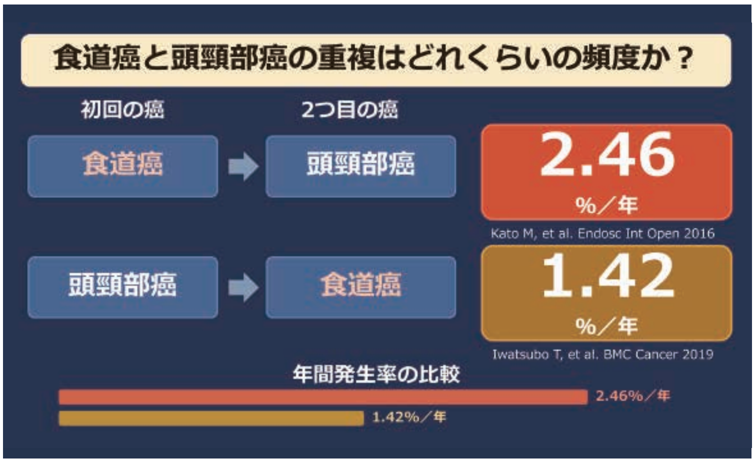
本院の岩坪医師らの研究では、65歳未満で頭頸部がんと診断された方は65歳以上の方より食道がんの発生率が年間1.42%と有意に高いことが示されました（5年で12.1％ vs 8.5％）。逆に食道がんから頭頸部がんへの二次がん発生率も年間2.46%と非常に高く、若年発症ほどリスクが高いことも報告されています。

消化器がんと関連が報告されている他臓器がん

■食道がん → 頭頸部がん（咽頭がん・喉頭がんなど）、胃がん、肺がん

■大腸がん → 胃がん、膀胱がん、子宮がんなど

※飲酒・喫煙や遺伝的素因などの共通したリスク因子が背景にあります。



内視鏡検査で早期発見・早期治療を

こうした重複がんの早期発見に有効なのが、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）と下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）です。当院ではNBI（狭帯域光観察）などの特殊光技術を備えた最新の内視鏡で、通常の観察では見つけにくい早期がんの発見に努めています。

早期発見できれば、内視鏡治療（ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術）で切除でき、体への負担も少なくて済みます。がんの治療歴がある方、飲酒や喫煙の習慣がある方、お酒で顔が赤くなりやすい方は、特に定期的な内視鏡検査をおすすめいたします。気になることがございましたら、お気軽に消化器内科にご相談ください。

患者サポートエリアでは様々な職種が連携して患者さんの対応にあたっています。

看護師
- 入院前の面談
- 治療や入院生活に関わる相談

薬剤師
- 服用されているお薬の確認
- お薬の休薬確認

栄養士
- 栄養状態の確認
- 退院後の食事についての相談など

歯科衛生士
- 入院前に歯科処置が必要でないかなどの口腔チェック

医療ソーシャルワーカー
- 退院後の生活や環境などに関する相談

事務スタッフ
- 入院前の手続き
- 療養生活に関わる様々な相談
- かかりつけ医の相談など

患者サポートエリアは病院本館1階にあります。ぜひご活用ください。

発行：大阪医科薬科大学病院 広域医療連携センター